

仕事をひろげ・つなげる

ワーカーズコープで働く

2005年8月4日、東京・武蔵野市の成蹊大学で行われた第43回全国進路指導研究大会*の分科会「働く・学ぶ・現代を生きる青年」に労協センター事業団の学童保育の仕事で働く2人の若者が自らの仕事や働き方について報告をしました。自立・就労に困難を抱える若者がますます増加する中で、ワーカーズコープの中で若者たちが何を考え、何に拘って働いているのか、2人の報告をご紹介します。(編集部)

協同組合の理念で学校づくりを



相良孝雄

(ワーカーズコープ：墨田区立フレンドリープラザ立川児童館)

こんにちは。相良といいます。今年26歳になります。今年の4月からワーカーズコープが指定管理者制度で運営している墨田区立フレンドリープラザ立川児童館という現場で働いています。中学生の居場所づくりを中心に進めていて、区が運営していたときに比べると、中学生の来館者数が4倍くらい増えています。また、日曜日も開館するようになり、月・木・金は夜9時まで開館しており、多くの方が来館するようになっています。

自分史と協同組合

高校のときに生徒会活動をやっていて、97%の生徒が「自動販売機が欲しい」ということで、生徒会として取り組み実現しました。その時に、「お前のおかげで部活帰りに冷たいジュースが飲める」とか「安く買えてうれしい」という話をされて、「自分でもほかの人の役に立てるんだ」と思いました。そのころから、人の役に立てる仕事がしたい＝高校の先生になりたいと思い始めました。

大学時代には6年間、大学生協活動に関わってきました。大学生協では、例えば新入生の歓迎パーティや受験宿泊といったことや、生協のお店にどんな商品を入れようか皆で話し合ったりしました。それから、バイク通学が多かったので、バイクの無料点検や、4、5月の飲み会が多い時期にアルコールパッチテストなどもやっていました。新入生歓迎パーティで大学生協の先輩たちを見て、「こんな風になりたいな」と思い生協

に入りました。「魅力ある大学をつくろう」というスローガンで、いろいろな人が関わり、環境問題や平和活動など社会に対して思ったことを生協の店舗でやってきました。

また、ゼミで商店街の活性化政策ということをやっている、魅力ある地域には魅力ある人がたくさんいるな、ということに気づきました。魅力ある人とは、自分がこうしたいと思うビジョンを語れる人が多くて、それと共にその人を慕って一緒に協力してくれる仲間がいる、と思いました。

そう考えたときに、協同組合自体が教育やさまざまな人をつなげるネットワークをつくって、学校をつくれなにかと思いました。そういう意味で大学院時代には「協同組合理念と協同組合運営方式で教育生協をつくろう」という論文を書きました。やはり、自立して協同し合う、自分たちで学校の運営をする、自分たちで行事の企画が立てられる、ということ協同組合の理念や運営方式でできると確信して書いていました。内容としては、A.S. ニールという人のサマーヒル学園の取り組みや、協同組合理念で家坂さんという方が共学舎というのをやっていたり、スペインでは協同組合学校というのがあって、それらを学びながら日本でもできないかということを書きました。

大学院も卒業して、教員になろうと思いましたが、その間半年ほど塾でアルバイトしていました。その時に思ったのは、「子どもと教科学習以外の場面で多く関わりたい」ということで、教科学習は学校の本分だと思いましたが、子ども自身が学校を運営したり、行事を企画でき

る場をたくさんつくりたいと思いました。実は私立高校に合格したんですが、学童クラブや児童館、保育園といった子育て・教育事業が協同組合で行われていることにショックを受けて、教員の内定を蹴ってワーカーズコープに入団しました。ここで、論文に書いたことが実現できるのではないかと、ということで、今ここにいます。

協同組合とは

農協、漁協、森林組合、生協などのひとつの仲間として、ワーカーズコープ=労働者協同組合があります。ワーカーズコープは、国・自治体などの公共セクターや民間企業の民間営利セクターとは違う、営利を目的としないNPOなどと並んで第3セクターと呼ばれています。第3セクターというと、日本では公共セクターと民間営利セクターの合併会社を想像するのですが、ヨーロッパでは共済組合、協同組合、NPOなどが非営利・協同セクターとして存在しています。富沢賢治先生によれば、非営利・協同セクターの特徴として、開放性 自律性 民主制 非営利性があります。

協同組合の組合員は、現在世界に6億人とされており、国連の社会経済理事会にもオブザーバーで参加しています。1833年に工場法をつくった初期の協同組合指導者ロバート=オーウエンが、工場労働者のために協同組合をつくって以降、協同組合は国際社会の中で大きな役割を果たしています。

協同労働の協同組合とは

私たちの所属するワーカーズコープでは、全体会議でそれぞれが意識して仕事をする

ために「協同労働の協同組合がめざすもの」を毎回読み合わせしています。

協同労働の協同組合の定義として「協同労働の協同組合とは、働く人びと・市民が、みんなで出資し、民主的に経営し、責任を分かち合って、人と地域に役立つ仕事をおこす協同組合です。

協同労働とは、働く人どうしが協同し、利用する人と協同し、地域に協同を広げる労働です。」とあります。働く人々がお金を出して経営もする。つまり自分たちの給料やボーナスも自分たちで考えて決めるんですね。そこで労働もする。私だったら児童館で児童指導業務をするわけです。つまり、働くためには出資＝お金をささなければならぬ。最初に5万円を出資する原則があって、それを元手に事業をつくっていく。一般の会社組織では、株主(＝出資者)と社長や専務(＝経営者)と従業員(＝労働者)がいて、そこでの働き方を「雇用労働」と言っているのですが、それに対して私たちの働き方は「協同労働」と言っています。

やはり、雇われていると経営者の責任にするんですね。「お前の経営が悪いからボーナスが出ないじゃないか」ということになるのですが、自分自身も出資して、一人一人の給料やボーナスも公開しているので、みんなで経営している、事業に参加していきたいと思える組織・制度がここにはあるかな、と思います。

最近、ライブドアとフジテレビの企業買収の話がありましたが、「会社は誰のものか」という議論でした。私はこの出来事から、株式会社制度が制度疲労を起こしていると思います。やはり「会社は株主のもの」とする

と、お金がある人だけが社会をつくってしまうことになるんですね。でも、協同労働という視点でいけば、貧乏な人でも経営に参加できる。そこで社会を変えられる力があるんですね。社会を変えるインパクトが協同労働にはあると思っています。

ワーカーズコープは、児童館・学童クラブ・親子ひろば・保育園・ホームレスの就労支援・知的障害者の就労支援・ヘルパー講座等の開催・配食事業・物流事業・清掃事業・ビルメンテナンス・介護予防施設・介護保険事業・食、農事業・地域調査事業など、多くの業種の仕事をしています。

なぜ今、ワーカーズコープで働いているのか

「子どもの学びと成長する瞬間」に多く関わりたいと思っています。子育て支援は児童館のスタッフだけで行うのではなく、地域・利用者、保護者の人たちと働く者が協同して行っていきたくと思っています。地域の人や保護者をお客さんにはいけないと思うんですね。地域が活気づいたり、自分の子どもがどのように育つか、というところでは、子育て支援は重要な場面になっていると思います。そのためには、こちらが請け負うだけでなく、主体者にしていくということを念頭に置きながら児童館で働いています。

先ほど言ったワーカーズコープの大切にしている3つの協同の中で、「働く者どうしの協同」が結構厄介で、それぞれいろいろな思いを持っている人が来ているわけで、そこはとことん話し合っ、とことんよりよい方向に事業所をもっていくためにどうし

たらしいか、という話をします。

上からの指示ではなく、働く者どうしの個人個人の創意工夫を活かす中で、子どもの成長を促したい。特に教育・子育ての仕事に関わる人は、その人自身が創意工夫できないと、子どもに対して何もできないのではないかと思います。

自分の夢としては、協同組合方式の学校をつくりたいというのがあって、ワーカーズコープは、そのやり方として合致しているから働いているという面もあります。

それから、教育という世界だけでなく、広く社会を見られる場に自分の身を置きたいと思ったんですね。社会全体を見たときにどういう教育が必要なのか、どういう子育て支援が必要なのかを一人一人が考えられることが重要なと思います。

ワーカーズコープで、若者たちは何を思って働いているのか

最近、ワーカーズコープでは20代前半からの多くの若者たちが働き始めています。それは、学童クラブや児童館で働きたいという人は結構いるんですね。ただ、委託や指定管理者の仕事は、いつまでもそこにいられるわけではなく、よい仕事を通じて仕事を継続するということですので、もっとワーカーズコープとしての自前の事業もやっていくことも重要なと思っています。

長く働きたいと思える待遇や給料の問題もあります。児童館や学童保育がどんどん民営化されてきています。民営化の目的としてはサービスの向上がよく謳われますが、それと共に経費の削減も目的とされています。その中で、自分たちで仕事おこしをして

いかなければならないと思います。

子どもたちは私のことを「さがっち、いるー？」といつも受付で声をかけてきます。その意味でも同じ指導員が継続的に子どもとかかわりを持てるような児童館・学童クラブ運営を行っていかねばならないと思っています。区の直営からワーカーズコープに引き継いだときも、それから私が一時その児童館から抜けるときの、子どもたちはとても心配していました。子どもたちとの関係が1年とか短期間で終わるのではなく、継続的にかかわりが持てるような経営基盤をつくっていかねばならないと思います。

それから、やりがいを持って入団してきている人がたくさんいます。「自分の思いを受け止めてくれる人がここにはいる」と思っている人もいます。例えば、「以前学校現場にいて、自分が思っていることが言えない環境だったが、ここでは、みんなと話し合って自分のやりたいことが言える」と言う人もいます。

本当に主体的に働くというのは、上からの押し付けでもなく、我を通すということでもなく、みんなで話し合いながらよりよいものにしていく、というのがワーカーズコープの強みかな、と思います。反対に、経営基盤をしっかりさせることが今後の課題だと思います。

今後の夢

2006年度の指定管理者の募集がすでに出ています。多くの児童館を指定管理者として受けていきながら、子どもの笑顔と成長を促進していきたいと思っています。

労働者協同組合はまだ法律がありません。現在はNPO法人や企業組合法人を使っているのですが、労働者協同組合の法人を認めさせ、もっと社会に開かれたものとして認められるようにしていきたいと思います。

2012年には教育特区で、ワーカーズコープが母体となって協同組合理念と協同組合運営方式で学校をつくりたい、と個人的な夢として思っています。

最後に

村上龍の『13歳のハローワーク』（幻冬社）の「NPOに就職すること」から抜粋をします。

「成功というのは、大きな会社に入って出世し、金持ちになって大きな家に住むことではない。そのことに多くの人が気づくようになるだろう。仕事に充実感を持つことができ、社会的に価値を認められ、豊かな人的ネットワークを持つこと、それがこれからの成功の基準だ。日本のNPOは、人間で言えば、まだ赤ん坊のような未熟な状態にある。だから、チャンスなのだ。NPOで必要とされ

る知識や技術はほとんど無限で、金融から宣伝、医療や環境から芸術まで、どんな分野であれ、専門家は常に求められている。会社の知名度や実績にこだわって就職活動をするのか、知識と技術を磨いて起業を考えるのか、または信頼しあえる対等な関係の仲間たちとNPOを立ち上げるのか、働き方の選択肢は一つだけではない。」

山一証券や北海道拓殖銀行が破綻したり、大企業が倒産するという現状があります。その中で企業が、もっと言えば雇用労働だけが働く場ではないな、と思っています。

私自身の労働観は「お金をもうけるため」だけではなく、社会の中で自分自身が役に立ちたい、一人一人が主体者となって協同して自治的な社会をつくりたいというものなので、本当にこの組織でこの仕事に出会えたことに幸せを感じています。今後も挑戦することを忘れずに、一步一步頑張っていきたいと思います。

自立した人間どうしが協同し合うことで社会の中で新たな可能性を生み出すのかな、と思っています。

働きながら夢を追い続けたい



古賀直子

(ワーカーズコープ：足立青井地域福祉事業所)

ワーカーズコープで働いている古賀と申します。私が働いているのは、足立区にある学童保育室です。今、足立区の中にはワーカーズコープが運営している学童保育が4カ所あります。スタッフは20代前半の人が多く、一緒になって4カ所を立ち上げてきました。今、私はその4カ所の所長をしていますが、とても所長とは言えない頼りない人間です。